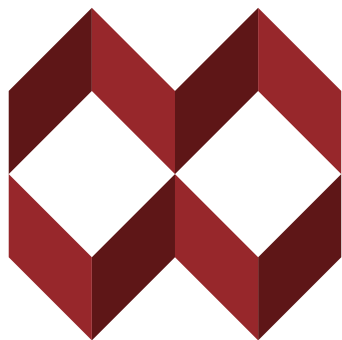




HACHINOHE GAKUIN

CAMPUS

vol.33

キャンパス八戸学院

八戸学院



新郷村との連携協定



光星高校 演劇部卒業記念自主公演



オープンキャンパス 3月8日開催



第86回選抜甲子園大会

— Contents —

■ 八戸学院大学

- ・新郷村と連携協定
- ・女子スポーツ 女子サッカー
女子駅伝
スピードスケート
自転車競技部
- ・東日本大震災資料展示「キロクをキオクに」

■ 八戸学院短期大学

- ・平成26年度新入生宿泊研修
- ・幼児保育学科 子供フェスタに「ミニ・オペレッタ」で参加

■ 八戸学院光星高等学校専攻科

- ・自動車科 企業説明会
- ・介護事例検討報告会

■ 八戸学院光星高等学校

- ・第86回選抜甲子園大会
- ・平成25年度感動あふれる卒業式
- ・島康子氏 卒業記念講演会

■ 八戸学院野辺地西高等学校

- ・春季大会で奮闘
- ・初心を忘れず将来を見据え

わたしたち、頑張ってます！

女子サッカー部 始動！



現在の日本女子サッカー界は、2011年のワールドカップ優勝、2014年の3月には17歳以下の日本代表も世界一に輝きました。まさに世界トップクラスのレベルにあるスポーツです。

その中で八戸学院大学女子サッカー部

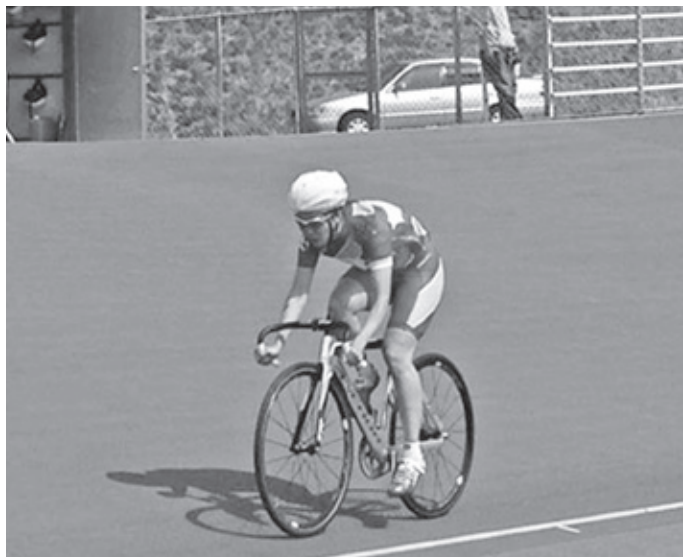
は始動しました。「サッカーは人生の縮図だ」という元日本代表オシム監督の名言があります。サッカーは「考える力」「乗り越える力」「自立する心」「仲間を想う心」、全ての教育的要素が凝縮されているスポーツです。そのサッカーを通

して礼節、規律など社会で歓迎される人材育成と、大学で得た幅広い知識を活かし地域から愛される女子サッカー部を目指してトレーニングに励みたいと思います。

名門 自転車競技部復活



かつてインカレで女子総合優勝を果たし、アジア大会や世界選手権へ選手を送り出した自転車競技部が復活しました。この春には、元富士急スピードスケート部員で世界的に活躍した清水知美選手がビジネス学部にて社会人学生として入学、自転車競技部員として心機一転世界を目指します。4月26日に行われた春季南部地区自転車競技大会3000メートル個人パーシュート種目では、本学OGの記録を塗り替える大会新記録で鮮やかにデビューを飾りました。自転車競技部は「科学的」「効率的」なトレーニ



ングアプローチを特色とし、この春から導入した科学トレーニングラボの低酸素装置などを活用し、世界と戦える選手を育成していきます。

スピードスケート部 新たなスタート！

昨年度から復部したスピードスケート部。初めは2名でのスタートでした。今年度は新たに古庄亜衣を迎え、お互いに切磋琢磨し、昨年度よりも練習に活気が感じられます。

また昨年度、入賞に届かなかったインカレでの悔しさもバネにこれからも練習

に取り組んでいきたいと思っています。

今年度の目標は、意識を高く持つこと。選手一人ひとりの自己ベスト更新と、インカレ・国体での上位入賞を目指します。競技の成績だけでなく、スポーツマンとしての礼儀や感謝の気持ちを含め、人間力を高められるように頑張りたいと思

ます。

選手と共に日々成長し、県内の中学校や高校のスピードスケート選手の模範となり、魅力ある部活にしたいと思います。



陸上競技部 女子駅伝チーム 強化中！

八戸学院大学陸上競技部は、平成25年度から女子駅伝チームの強化を図ることとなり、指導者として石橋修教授（ビジネス学部）を迎えた。石橋教授は自ら箱根駅伝を走った経験を持ち、前任校の青森大学では全国大会で活躍する多くの選手を育成してきた。女子駅伝チームの目標は、毎年11月に仙台市で行われる全日本大学女子駅伝（通称「杜の都駅伝」）への出場であり、そのためには東北地区の大学で行われる予選会を勝ち抜かなければならない。現在、女子駅伝チーム主将の平野瑞希（人間健康学部3年）を中心にして走り込む毎日である。駅伝は注目度の高い種目である一方で自ら生活を律する能力が求められる。競技と勉学との両立を目指すその存在は大学の模範となることが期待される。



平成 26 年度 入 学 式

平成26年4月7日(月)、平成26年度 八戸学院大学・八戸学院短期大学の入学式が八戸市公会堂にて挙行され、八戸学院大学144名（ビジネス学部74名：編入学生3名含む、人間健康学部70名：編入学生1名含む）と八戸学院短期大学209名（幼児保育学科104名：編入学生2名含む、ライフデザイン学科30名、看護学科75名）の新入生が、本学の学生としての第一歩を踏み出しました。

式典に先立ち、八戸学院短期大学幼児保育学科2年生によるピアノ演奏と合唱が披露され、緊張感が漂っていた会場は温かい雰囲気に包まれました。

式典では、新入生を代表して、八戸学院短期大学幼児保育学科の南川恵里奈さんが「大学生、短大生としての自覚を持ち、自分の夢に向かってまい進していく覚悟です。」と宣誓しました。八戸学院大

学の大谷真樹学長からは、「皆さんは、無限の可能性と挑戦する権利、そして何度でも失敗する自由を持っています。高い志を掲げ、悩まずに走り続け、大いに失敗しようではありませんか。」と、八戸学院短期大学の外崎充子学長からは、「自分の意志と行動で導き出した大学生活です。その重みを自覚し、次のゴールに向かってダッシュしてください。」との式辞が述べられました。

新入生たちは、春の朗らかな日差しが降り注ぐ中、明日からの大学生活への期待に胸を膨らませ、会場を後にしました。



八戸市長 小林 眞



八戸学院短期大学 外崎充子学長



八戸学院大学 大谷真樹学長



八戸学院短期大学 看護学科 附田夏実さん



附属幼稚園聖アンナ 園児の皆さん

(左から高野優ちゃん、高橋輝くん、白川杏奈ちゃん、鈴木渉未くん、米澤史美ちゃん)

東日本大震災資料展示「3.11キログをキオクに2014」開催

八戸学院大学・八戸学院短期大学図書館では、平成26年3月3日(月)～4月30日(水)の期間、1階ブラウジングコーナーにおいて東日本大震災資料展示「3.11キログをキオクに2014」を開催しました。

今回の企画展示では、報道記者や多くのカメラマンによる東日本大震災の恐怖と悲惨さを撮影した報道写真やノンフィ

クションライターの方たちが著した震災の現実、被災地で支援を行った人の体験談など、本館に所蔵してある約90点の関連資料を展示しました。

資料の中には、震災当時の被災地の人々が直面した現実と、被災地で頑張っているたくさんの方々の表情が様々なアングルで掲載されており、復興に向けてたくましく歩む人々の姿なども鮮やかに描かれています。

展示している資料を学生はもちろんのこと、教職員や一般の方々が来館し、真剣な眼差しで閲覧している姿が見られました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から3年が経ちましたが、被災地の復興はまだまだ先が見えない状況です。そ



うした中で、あのとき何が起きたのか、いま被災地ではどのような状況なのかなど、東日本大震災を風化させないために、あの未曾有の大災害を経験した我々が多くの人たちに伝える必要があります。そして、復興へ歩み始めた様子を紹介することで、「あの大震災の日」から現在までを振り返ることができます。被災地で何が行われたのか、それを知り、今も頑張っている方々がどのような思いでいるのかを感じ取り、多くの方に復興への想いを抱いて頂ければ幸いです。



人間健康学部・看護学科公開講座

「長寿社会を豊かに生きる」

人間健康学部・看護学科が主催する公開講座「長寿社会を豊かに生きる～生涯発達の視点から健康を見つめて～」が平成26年3月8日(土)八戸ポータルミュージアムはっち1階はっちひろばにて行われ、延べ約100名が参加した。

講座は、人間健康学部 小柳講師から始まり、社会福祉士の主な役割に触れ、高齢者福祉に関して、罪を犯す高齢者の増加や、その後の支援の必要性について、様々なデータを示しながら述べられた。

次に看護学科 田名部准教授は、話題となっている「ロコモティブシンドローム」「メタボリックシンドローム」「認知症」について述べ、健康で長生きするために、各自が健康づくり・介護予防の意識を持ち、早めの取り組みと地道な取り組みが大切だと述べられた。

次に学生による研究発表が行われた。発表内容は『血流制限

を伴うレジスタンストレーニングが介護を要する高齢者の歩行機能に及ぼす影響について(人間健康学部4年生)』、『種差海岸の自然に触れる海岸浴の効能(人間健康学部2年生)』、『喫煙が及ぼす健康被害について(看護学科3年生)』、『子どもの肥満に影響を及ぼす要因(看護学科3年生)』と多岐にわたるものであった。

次に人間健康学部 小幡准

教授は、子どもの生活実態調査の結果などに触れながら、子どもの食事について話され、バランスの良い食事が望ましいが、一番大切なのは楽しく食事することだと述べられた。

最後に看護学科 三浦講師が精神的な健康に関して話された。「常に前向きに元気良くでは、こころが疲れてしまう。泣きたい時には思い切り泣くことも必要である」とし、「こころから笑顔ができた時、こころが健康と言えるのではないだろうか」と述べられた。



新郷村と連携協力協定を締結



平成26年3月27日(木)、八戸学院大学と八戸学院短期大学は、包括的連携のもとそれぞれが保有する情報、ノウハウ等を用いて相互に協力し、地場産業の育成と振興、生涯学習の推進、地域住民の健康増進およびスポーツの振興による社会発展に貢献することを目的として、新郷村と連携協力協定を締結した。これは、地域に根ざした高等教育機関を標榜する本学と、農林業等の産業振興、生涯学習及びまちづくりの推進並びに定住の促進を

目指す新郷村が、情報交換・共同研究、イベントの啓発活動や参加協力などを通じて、新たな幅広い協力関係を円滑に進めるための協定である。

調印式には新郷村の須藤良美村長、八戸学院大学の太谷真樹学長、八戸学院短期大学の外崎充子学長が出席、三者による協定書へのサインの後、今後の連携に向けて握手を交わした。

調印式後の記者会見では、太谷学長と外崎学長から、地域に立地している大学としてお互いの持つ資源を有効に活用し、更なる発展を目指し連携を強化して取り組みを進めたいと述べられた。

平成25年度 大学・短大外郭三団体合同懇談会開催

八戸学院大学・八戸学院短期大学の外郭三団体合同懇談会が、平成26年1月31日(金)八戸プラザホテルで開催され、両学の後援会・同窓会・父母の会の役員約70名が一同に会した。合同懇談会は、大学・短大の状況を報告することと、三団体役員との懇親を深めることを目的に毎年実施されている。

懇談会では三団体を代表して山田政信八戸学院大学後援会会長が、改革を進める大学・短大を外郭団体として引き続き支援していきたいと挨拶した。

続いて本学院から法官新一理事長が大学・短大の様々な取り組みについて報告し、今後のご支援とご協力をお願いして

挨拶した。

太谷真樹八戸学院大学長と外崎充子八戸学院短期大学長から大学・短大の近況について、それぞれ報告がなされた。

その後、中川原俊雄八戸学院短期大学

後援会会長の乾杯の発声とともに、和やかに懇談が行われた。

出席した役員は、両学ならびに各団体の近況について活発に情報を交換し、役員同士の交流を深めた。



「八戸学院大学」OB&OG訪問 part33



青森トヨタ自動車株式会社 八戸店
カーライフアドバイザー
山美 優貴 さん

プロフィール

(出身高校) 光星学院高等学校 普通科
(出身大学) 八戸大学 ビジネス学部
第28回生(平成24年3月卒業)
(勤務先) 青森トヨタ自動車株式会社 八戸店

■学生時代の思い出を聞かせてください。

バスケット部での活動が一番の思い出です。ほぼ毎日の練習で厳しかったですが、楽しいと思うことのほうが多いです。初めて試合に出場したのは1年生の時。負けてしまいましたが、すべてが印象に残っていて、今でも思い出します。多くの仲間にも出会うことができました。部活以外でも多くの時間を過ごし、今でも大事な仲間です。

■進路についてはどのように考えていましたか。

小さい頃から車が好きでした。専攻科への進学を考えていましたが、周囲の意見を聞いて、高校は普通科、大学はビジネス学部へ進学しました。就職について考えはじめたときに、やはり車に関係した仕事がしたいと思い、青森トヨタ自動車の試験を受けました。

■仕事を始めて1年がたちましたが、一番印象に残っている事をお聞かせください。

どんなお客様でも、納車された車を見ると笑顔になり喜んでいただけます。「ありがとう」の言葉と、新しい車に乗って帰っていくお客様の後姿を見る時は、いつも印象的です。

■最後に、在学生へメッセージをお願いします。

大学生活の4年間は、講義やクラブ活動・アルバイトなどで忙しいと思います。それは、学生でなければ出来ない事ばかりですが、学生のうちに果敢にチャレンジしてほしいと思います。そこで経験した事は、社会に出てから役に立つと思います。たくさん遊び、たくさんの経験をして、(少し勉強もして...)。その中で、じっくりと就職活動をしていくといいのではないのでしょうか。

平成25年度 学位記授与式

平成26年3月18日(火)、八戸市公会堂にて、八戸学院大学・八戸学院短期大学の平成25年度 学位記授与式が挙行されました。

平成25年度の卒業生は、大学97名（ビジネス学部51名、人間健康学部46名）、短大188名（幼児保育学科98名、ライフデザイン学科20名、看護学科70名）の合計285名。

式典では、八戸学院大学の大谷真樹学長と八戸学院短期大学の外崎充子学長が

各学部学科の代表者に学位記を授与し、その後は学部長・学科長より全員に学位記が手渡されました。

式典では、八戸学院短期大学の外崎充子学長が、「経験も技術も未熟な皆さんが最初から思い通りにいくことはめったにありません。思い通りにいくかどうか心配する前に、最善を尽くす決意を固めてください。使命感と情熱を両の手に携えて、果敢に一步を踏み出して下さい。踏み出したら全力で走る事です。」と

激励されました。卒業生を代表して、八戸学院大学ビジネス学部の村上淳さんと八戸学院短期大学幼児保育学科の高村友希さんが学生生活の思い出や新生活への期待など謝辞を述べました。

最後は声高らかに学歌を斉唱。式典を終えた卒業生たちは、先生方や仲間たちとの別れを惜しみつつ、人生の大きな節目に新たな一步を踏み出しました。



第3回 オープンキャンパス

平成26年3月8日(土)に平成25年度最後のオープンキャンパスが行われ、生徒、保護者を合わせて約103名が参加しました。

今回は、3月開催のオープンキャンパスということもあり、高校1・2年生を中心に進路研究のための参加が多かったようです。

まずは、八戸学院大学大谷真樹学長の講話「自分と未来を変える10のヒント！」



では、「自分の3年後、10年後、50年後のような人生を送りたいのか?」「自分で壁を作るな!」「まずはYESと言おう!」などのメッセージを伝えていました。参加していた高校生からの感想に、「夢を達成するために自らの人生計画を立てていくことが大切だと感じた」「行動する前に諦めるのではなく、失敗を恐れずに何事にも挑戦していこうと思った」などの前向きな意見がありました。

また、各学部学科に分かれての体験授業と講座では、【ビジネス学部】「将来の進路選択と公共コースで学ぶ意義ーキャリアについて考えよう!」「情報と消費行動」、【人間健康学部】「スポーツ科学とは何か」「健康科学とは何か」、【幼児保育学科】「幼児保育学科で学ぶとは」、【ライフデザイン学科】「情報の新しい世界」、【看護学科】「看護学科の魅力とは」が行われました。個別相談やキャ



ンパス見学、毎回好評の在学生フリートークでは、入試や学生生活などの相談で不安や悩みを解決できて良かったという意見も多数寄せられました。

平成26年度は、7月26日(土)、9月27日(土)、3月7日(土)の開催を予定しています。学部学科紹介、施設見学、体験授業、入試対策講座、在学生フリートーク、クラブ・サークル紹介、資料配布を計画しています。

新 入 生 宿 泊 研 修

平成26年4月11日(金)～12日(土)に奥入瀬溪流ホテルにおいて、1泊2日の八戸学院短期大学新入生宿泊研修が実施された。この宿泊研修は、「新入生相互ならびに教職員・リーダー学生との親睦を図る」「学生生活および学修の方向付けを行う」ことを目的として毎年4月に行われており、今年度で8回目の開催となった。

1日目の研修は、出会いのワークショップ、学歌研修、学生会企画等が行われた。出会いのワークショップでは、新入生の緊張や不安を取り除き、互いにコミュニケーションを深めることを目的とした活動が計画され、始めは緊張気味であった新入生も、リーダー学生の巧みな進行にも助けられ、学科を超えて楽しそうに会話をしたりグループ活動に参加したりする姿がみられるようになった。学歌研修では、本学音楽教員から学歌の歌唱指導を受け、全員大きな声で1番から3番までを合唱し、意欲的に指導を受

けながら学歌をしっかりと覚える姿がみられた。夕食後に行われた学生会企画では、短大生活の主要行事や実習などの紹介、サークル・同好会の紹介、毎年新入生が地域行事に参加している八戸小唄流し踊りの紹介と実技指導が行われた。そして、研修1日目の最後には学科ごとに計画されたリーダー学生による学生会歓迎セレモニーが行われ、新入生はリラックスした雰囲気の中で学生生活への理解を深めている様子であった。

2日目の研修は、交通安全講習会と各学科に分かれて学科研修が行われた。交通安全講習会では、本学における昨年度の交通事故状況がリーダー学生より説明された後、安全運転のための技術と心構えに関するDVD視聴を行った。実際に事故を起こしたリーダー学生から、事故を起こした時の状況や安全運転に対するアドバイスを聞くことができ、新入生は安全運転への意識を高めることができた。



学科研修では、それぞれの学科の特色を活かした内容が企画され、新入生は学生生活や勉学に対する方向付けができたようである。

新入生にとっては緊張から始まった宿泊研修であったが、2日間のプログラムを無事に終えたころには心もほぐれ、心地よい疲労感とともに帰路についたようだ。新たな仲間とともにそれぞれの夢に向かって充実した短大生活を送ってほしいと願っている。



平成25年度 ライフデザイン学科

ゼミナール発表会

平成26年1月30日(木)八戸学院短期大学221講義室において、ライフデザイン学科ゼミナール発表会が開催された。このゼミナール発表会では、毎年、各ゼミナールの今年度の活動の総まとめを発表しており、ゼミナールⅠ・Ⅱの達成目標を明確にし、ゼミナール活動をより活性化するとともに、学生のプレゼンテーション能力の向上を目指すことを目的としている。

各ゼミナールでは、これまでのゼミナールの活動を振り返り、それぞれの特

色や独自性を伝えるプレゼンテーションを行うために、資料や手法を工夫して発表会に臨んだ。当日は1年生が司会を担当し、5グループのゼミナールそれぞれが、工夫を凝らした特色ある発表を行った。最後に、外崎学長から、次回へ向けたアドバイスと、発表内容の質の高さに対するお褒めの総評をいただいた。



幼児保育学科 子どもフェスタに「ミニ・オペレッタ」で参加

平成26年2月23日(日)幼児保育学科2年生が「子どもフェスタ」に参加し、八戸市公会堂でミニ・オペレッタの発表会を実施した。このミニ・オペレッタは、幼児の行う小歌劇という意味で、大人の歌劇と根本的に違う点は、集団と集団の歌の対話により劇が進行していく総合芸術表現である。保育士養成校として、学生達が自信を持って職場で活躍できる“実学的専門性”を身に付ける事を願って平成14年度から実施している。

<共同制作から学ぶ>

- ※「ひとつの目標に向かって協力しあう心」
- ※「決めた目標を皆で膨らませ、協調心を養い創造性を広げる」
- ※「個性のぶつかりあいをプラスになるよう工夫し、取り組む姿勢」
- ※「積極性と、時には自分の考えを引く勇氣」
- ※「周りの人を思い遣る気持ち、忍耐と寛容」



この項目を掲げ「音・美・体」の2年間の集大成として表現発表会を行っている。

学生達は全過程において工夫を凝らし、「音楽のプロデュース、物語の演出や照明、大道具、小道具、背景、衣装」等の手作りの演習活動を行い、毎年納得のいく上演発表となっている。そして、このミニ・オペレッタが子ども達に受け入れられるか、また、職場での専門的技術・技能の基礎は大丈夫なのか、さらには、総合芸術としての専門知識・理解力・認識等を培うことが出来たか等、学生達は発憤しながら、身体から漲る表現・演出を模索し構成しつつ充実した発表を楽しんでいる。幸いにも八戸学院短期大学附属幼稚園をはじめ八戸学院短期大学聖アンナ幼稚園、八戸学院短期大学第二しの



のめ幼稚園が学生達の力強い実践の場となり、自信に満ちた力強いエネルギーを発揮することができている。そして、子ども達に受け入れられた達成感と実践的学習成果の獲得によって、保育者としての自信と夢の実現が実践的専門性として養われ、これにより地域で活躍できる自覚・風格が培われる。



平成25年度 看護学科就職相談会実施

平成26年3月7日(金)、八戸学院大学・八戸学院短期大学総合実習館において、次年度卒業予定者を対象に、看護学科就職相談会が開催された。実習先及び就職先である県内外20施設から卒業生を含む

54名の担当者が参加した。今回初めて事務職のコーナーを設け、短大のライフデザイン学科、大学の人間健康学部学生の参加があった。参加した約80名の学生たちは、様々な施設の情報を真剣に収集していた。

年々、卒業生を連れ参加する病院施設が増え、今年は15名の卒業生が施設の説明や後輩への就職相談に応じた。出席した担当者から「貴校から就職して頂いたスタッフの事をお伝えでき良かった」と感想が述べられた。卒業生の成長した姿を目の当たりにし、教職員の



喜びも大きく、参加学生と共に貴重な就職先との情報交換の場となった。就職相談会後のアンケートでは、参加学生や施設側の満足度は高く、是非次年度も開催して欲しいとの要望が多く聞かれた。現場で頑張っている卒業生に、心から感謝する一日となった。



八戸学院光星高等学校専攻科

平成25年度 修了証書授与式

平成26年3月13日(木)午前10時より、八戸学院大学会館にて本校の平成25年度の修了証書授与式が挙行されました。今年度の自動車科は第39回修了生(11名)、

介護福祉科は第21回修了生(34名)となり、それぞれが社会へ巣立って行きました。

今回の修了生の就職状況は、自動車科・介護福祉科の就職希望者のほぼ全員の内定が決まりましたが、特に自動車科の学生は昨年9月までには全員が内定しました。

両科共に、同じクラスの中で同じ志を持った仲間と、机を共に過ごした2年間は苦楽を共有し、専



門的な知識はもちろんのこと仲間との絆もより深められたと感じています。

振り返れば、修了生の諸君は普段の授業や校外実習・施設実習において多くの指導者との関わりを通して自他と向き合う必要性や協調性を学んで様々なことを共に乗り越えてきたはずです。このような仲間は一生の宝であることを忘れず、これからも各職場で活躍して欲しいと思っています。



本校自動車科1年生を対象に企業説明会を、平成26年2月27日(木)八戸学院大学会館及び3月6日(木)本校校舎の二日間実施し無事終了いたしました。

この説明会の趣旨は、学生の進路に対する意識の高揚を図るものであり、毎年この時期に実施しております。

学生達は、リクルートスーツ姿で緊張した様子で各社の採用担当者の説明を受け、自分達が将来就職試験にチャレンジするための情報を得ようと終始真剣な表情で取り組んでいました。また、今回参加して頂いた企業の参加数は県内外合わせて17社でありました。

説明会終了後の学生達の反応として

○インターネット情報等とは別に、直接お話しができて知りたい情報を得ることができ参加して良かった。

- 会社概要を細かく知ることができ、企業選択に役立った。
- 採用試験を受ける会社が決まった。
- 参加してくださった会社を、もっと回りたかった。時間が足りなかった。
- ほとんどの会社が社員教育に力を入れている事を知った。
- 仕事内容を詳しく知ることが出来て良かった。
- 就職試験を頑張ろうと思った。
- ためになる話を聞くことが出来て良かったと思う。
- 企業が必要とする人材が何となく見えてきた。

等の意見や感想がありました。

ご多忙中にもかかわらず、賛同し参加していただきました企業の皆様には深く感謝申し上げます。



平成25年度 介護事例検討報告会

平成26年2月25日(火)、26日(水)の2日間、介護事例検討報告会が施設実習指導者の

皆様の参加をいただき、開催されました。21回生34名全員が介護実習Ⅱでの受け持ち事例についての学びを発表しました。介護実習Ⅱは2年次に6月と11月に各5週間、320時間の計画で、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障がい者支援施設の10施設で実施されます。報告の内容については実習終了後、実習での体験の中から、各自がテーマを決め、介護の専門性を活かして、まとめ上げました。「文章が上手く書けない」「利用者さん

の思いを表現できない」と悩んでいた学生も、夜遅くまで、仲間たちと協力しながら取り組んでいる姿に、2年間の成長を感じました。発表会では1年生も熱心に聴講し、質問をするなど、事例検討に対する動機づけになったのではないかと思います。有意義な時間を過ごすことができ、ご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。



八戸学院光星高等学校

全国高校選抜レスリング大会

平成26年3月27日～29日、新潟市で行われた第57回全国高校選抜レスリング大会に出場しました。団体戦では、4年連続の出場となり、個人戦には5名出場しました。昨年以上の成績を目指し挑んだ試合でしたが、団体戦の初戦、和歌山北高校に対し、2対5で惜敗しました。勝負のポイントは、徹底した攻めの姿勢を貫けなかったことです。チャンス所で勝ちたい気持ちが強すぎ、失敗を恐れた展開になってしまったのが敗因です。勝利を掴む闘いは、繊細で厳しいということをもう一度考え、インターハイでは、強い闘いができるよう、そして、勝利を掴み

取るよう練習に励みたいと思います。全国制覇のために今日の一步を全力で踏み出します。応援して下さい皆様へ心より感謝申し上げます。

(顧問 金淵 清文)

大会結果

団体戦	初戦敗退	
和歌山北高校(和歌山県代表) 2対5		
個人戦		
50kg	佐々木利嘉	2回戦敗退
55kg	加賀沢啓太	第5位
60kg	葛西 飛駿	3回戦敗退
66kg	上野 千紘	第5位



光星学院高等学校から八戸学院光星高等学校に校名が変わり、2回目の入学式が、4月7日PTA・後援会・同窓会・中学校関係者を来賓にお迎えし、多数の保護者が出席される中、本校体育館において、挙行されました。普通科164名、保育福祉科119名、ビジネス科36名、工業技術科59名の合計382名が、橋場校長より入学を許可されました。橋場校長は、式辞の中で「3年間、本校での感動と出会いを大切にしてほしい。」と熱く語り、法官理事長からは「校名変更の意味を知り、地域および社会に貢献ができ、地域

平成26年度 八戸学院光星高等学校 入学式

に根ざした生徒になってほしい」と期待の言葉を、また、西澤PTA会長からは「充実した学校生活ができることを第一に考え、生徒達を温かく見守っていきたい」との有難い言葉を頂きました。

また、新入生代表で上村勇気君(八戸市立湊中出身)からは、「八戸学院光星高等学校の生徒として学校の校則をきちんと守り、自己の目標に向けて一生懸命努力します」と力強い宣誓がありました。

会場が盛大に盛り上がりました。

さて、今年度の入学者を合わせると八戸学院光星高等学校は、1128名出発となります。私達教員は、校訓である「正義 賢明 剛毅」を常に意識し、個性の尊重と県内で一番活気のある楽しい学校の構築をめざし、生徒一人ひとりの夢と可能性の創造と、単に夢を夢で終わらせないということを、日々着実に実践していきたいと考えております。また、日頃から常に橋場校長が述べている「生徒とともに積み重ねる日々の小さな感動が、お互いの人生を豊かにする感動クリエイターとしてあり続ける」ということを意識し、平成26年度も頑張りたいと考えております。

(教頭 門馬 修)



式終了後は、歓迎セレモニーとして八戸学院短期大学附属幼稚園の園児4名によるかわいいお祝いの挨拶や本校チアリーディング部による華麗な演技が行われ、

アメリカでイチローの次に有名な日本人 光星高校で講演！

「Keep on dreaming!」夢を追い続けることが大切だ！

この言葉から始まった吉田氏の講演は、あっという間に聴衆の心を鷲掴みにした。(4月9日本校体育館にて、講師にヨシダグループ会長 吉田潤喜氏をお招きし入学記念講演が行われた。)

吉田氏は19歳で単身渡米し、波瀾万丈の日々を送りながら、ソースの開発・販売を成功させた。アメリカンドリームを実現したご自分の生き様を、軽妙な関西弁で語り、夢を追い続けるパッションが

運を引き寄せると言い切った。吉田氏は、「物事には必ず浮き沈みがあるが、失敗を恐れ逃げ道を作り、諦めてしまうとそこで終わりである。諦めず周りを見回すと閉まった扉とは別の扉が必ず開いているものである。そしてそこには、一緒に夢を追ってくれる人がいるはず。『商売は“人もうけ”』自分を愛し周りの人を愛することこそ、人間として一番大切なのだ。」と語る。入学記念講演にふさわしく、夢に近づけるよう、常に挑戦し周りの人に思いやりを持ってこれからの人

生を歩んで欲しいと生徒たちにエールを送った。

(総務 類家 和似)



感動あふれる卒業式

「三年間どうもありがとうございました」

卒業生の代表が、退場時に保護者席へ向かい大きな声で最後の挨拶をした。一斉に下がる各部の垂れ幕と同時に紙吹雪が舞い、平成25年度の卒業生もたくさんの人達に感動を与えながら光星高校を巣立っていった。私は主任として初めて卒業生を出したが、三年間の思い出が、一人ひとりの大きな返事を聞く度に思い出

され、涙が止まることはなかった。思い起こせば3年前、震災の最中に入学してきた407名の生徒を預かり、何を計画するにも危機管理を一番に置き、「生徒の安全・安心」を重点的に考え、各行事を行った。2年生最大の行事である修学旅行は、近年では最大規模の旅行隊になり、広島での平和教育をメインに四国・関西をバス10台で走る姿は、硬式野球で名が通ったこともあり、地元の人たちからたくさんの方の声を掛けていただき、全国区の光星高校を十分にアピールした。

3年生に進級してからは、最上級生としてスポーツフェスティバル・光星祭などを見事に成功させ、後輩達へ良き伝統を立派に引き継ぐことができた。そして、

いよいよ卒業の時期が迫ってきた3学期、希望の進路も決定し、自信に満ちあふれた表情を見た、私達3学年スタッフは、一致団結し、「感動する卒業式を」のテーマのもと、3月1日に向かって準備を始めた。私は、何年も式指導をしてきたが、練習・リハーサルを見て、すべて完璧と思えた年は初めてであった。そして卒業式当日、多数のご来賓、保護者の皆様を迎え、盛大に行われ、たくさんの感動を与え、出席された方々からお褒めの言葉を頂き、素晴らしい式典となった。

(3学年主任 中村 良寛)



街おこしゲリラ集団「あおぞら組」代表 島康子さんをお招きしての卒業記念講演会が、平成26年2月21日(金)に本校体育館で行われました。「壁があったら、穴をあける!」-大間のマグロ女子の生きざま-という演題でお話してくださいました。

まぐろTシャツを着て登場した島さんは、「オーマの休日」のポスターをスクリーンで紹介したのち、ご自分の生い立

島 康子氏 卒業記念講演会

ちと、実家の製材所を継ぐために大間に戻ってきて、あおぞら組の活動を始めたことをユーモアを交えながら楽しくお話してくださいました。東京で仕事をしていたとき、初めて思い通りにいかないことを実感したといいます。そして、ふるさとに帰って何かやれるかなという気持ちになって帰ってきたそうです。NHK連続テレビ小説「私の青空」で大間が舞台となったことがきっかけであおぞら組を立ち上げ、旗振りウエルカム活動などを行い、楽しみながら大間をPRしている様子などをご紹介くださいました。そして、何かをやろうとしたときにはまず

やってみること、やり始めたときがスタートではなく、うまくいかなかったら軌道修正をしながら一生懸命やっていけば絶対道は開けてくるからみなさんもまずは行動してみることです、と話してくださいました。島さんの元気をもらい、卒業する生徒たちに勇気と希望を与えてくださった講演でした。

(教頭 加藤 康子)



色々あった! 自主公演

「自分の色を、大切にしよう」。生徒達が創り上げた台本に込めるメッセージには、時に大人までハッとさせられます。去る3月13日、八戸市民館ホールで、光星演劇部による「第2回自主公演・卒業記念公演」を開催しました。一時期は存続すら危うい状態だった演劇部ですが、昨年度の卒業生の活躍で地区大会3年連続の最優秀賞、県大会ベスト4など、今では強豪校の仲間入り。そんな彼らの功

績を讀えるための公演は、観客動員数も約250名に上り、見事大成功を収めることができました。また、校長先生や理事長先生を始め、多数の職員の方々にもご来場いただき、大変嬉しいイベントとなりました。本番までにはたくさんの努力・苦労・苛立ち・涙がありましたが、だからこそ成功できたのかなと思います。ご支援下さった全ての方に、この場を借りて改め

て感謝申し上げます。今年度も気持ち新たに、演劇部の色を大切に、活動したいと思います! 今後ともご声援宜しくお願いします。

(演劇部顧問 穴澤 篤志)



平成 26 年 度 入 学 式

平成26年4月7日(月)、まだ霊峰烏帽子に雪が残る中、本校の入学式が挙行された。

真新しい制服に身を包んだ新入生たちは、自分の名前を探すため玄関前に貼り出された名簿を眺めていた。履き慣れない、まだ真っ白な上履きが、彼らの今の

様子と同じに見えた。ロッカーへ下足を入れ、初めて顔を合わせる同じクラスの未来の友人たちがいる教室へ入っていった。

体育館へ新入生が、クラスごとに入場した。顔が強ばっている者、伏し目がちな生徒、隣に並んだ子と既に仲良くなり

笑顔で元気に入場する生徒、十人十色であった。

式次第に従い式が進む中、真剣な面持ちで話を聞いている新入生たちの横顔は、どこかあどけなく、どのように成長していくのか。退場していく彼らの姿を見ながら期待している。



春季大会で奮闘

雪もようやく解け、部活動も活発に活動する季節となり、新学期早々に春の試合が始まりました。

各部は、切磋琢磨して日々精進してお

りますので、今後ともご声援の程よろしくお願いします。なお、レスリング部、バドミントン部の県春季大会も後日行われる予定です。

試合結果

○空手道部

県高体連空手道専門部春季大会

- | | | |
|--------|----|---------|
| 女子団体組手 | 優勝 | |
| 女子個人形 | 優勝 | 小比類巻わかば |
| | 3位 | 池田 寿鶴 |
| 女子個人組手 | 2位 | 寺島 晴菜 |
| | 3位 | 藤野 芳江 |
| | 3位 | 小比類巻わかば |

○バドミントン部

春季二北地区選手権大会

- | | | |
|---------|----|---------|
| 男子ダブルス | 1位 | 大山・竹内組 |
| | 2位 | 白石・金見組 |
| | 3位 | 新山・伝法組 |
| 男子シングルス | 1位 | 大山 絢己 |
| | 2位 | 新山 慎也 |
| | 3位 | 伝法 魅茅 |
| | 3位 | 竹内 大樹 |
| 女子ダブルス | 1位 | 野田・竹ヶ原組 |
| 女子シングルス | 2位 | 加藤 愛望 |
| | 3位 | 野田 京花 |

○硬式野球部

第34回十和田地区高等学校野球大会

- | | |
|--------|---------|
| × 3-11 | 対三沢商業高 |
| × 3-6 | 対十和田工業高 |

春季青森県高等学校野球選手権大会
十和田地区予選会

- | | | |
|-----|-------|---------|
| 1回戦 | ○ 9-3 | 対三本木農業高 |
| 2回戦 | × 2-3 | 対三本木高 |

○サッカー部

高円宮杯U18サッカーリーグ2014

- | | | |
|-----------|-------|---------|
| 青森県 1部リーグ | 5勝0敗 | 1位 |
| | ○ 5-4 | 対光星高2nd |
| | ○ 5-1 | 対三沢商業高 |
| | ○ 6-0 | 対青森西高 |
| | ○ 4-3 | 対東奥義塾高 |
| | ○ 2-1 | 対八工大一高 |

2部リーグ野辺地西2nd

- | | |
|--------|----|
| 4勝0敗1分 | 1位 |
|--------|----|

3部リーグ野辺地西3rd

- | | |
|------|----|
| 3勝1敗 | 2位 |
|------|----|

(いずれも5月7日第5節終了までの成績)



賢明の心磨きて、今 学舎を巣立つ

平成26年3月3日(月)、本校では系列クラス最後の卒業式が行われた。予行ではぎこちない姿勢や返事で不安な面もあったが、卒業式が近づくにつれ、自ら容儀を正し、姿勢の良さを保ち、丁寧な礼をする姿が見受けられるようになっていった。

迎えた卒業式本番、卒業生たちは立派な返事をして、大きな声で校歌を歌ってくれた。そして3年間お世話になった先生方に「ありがとうございました」と式場を後にした。

帰りのHRでは記念品のひとつとして、

生徒一人ひとりに似顔絵が配られた。その似顔絵は、本校の3学年委員長で新日本美術院の会員でもある佐藤和恵さんが描いてくださった絵である。その色紙には生徒それぞれが好きな言葉が添えら



れており、卒業生はしみじみと嬉しそうに眺めていた。他にも担任からの温かい励ましの言葉に涙する姿や、担任が涙する姿が見られた。

その後は3年間の記憶をたどって友達と笑いあったり、卒業アルバムにお互いのメッセージを綴ったりして、別れを惜しむ姿があった。保護者の方や成長させてくれた人に感謝の気持ちを持ちつつ、その先での活躍を期待したい。



初心を忘れず、将来を見据え

—— 平成26年度のスタート 新学期新入生への行事 目白押し ——

平成26年4月9日(水)、新入学生を対象とした学校ガイダンスが体育館で行われた。

1学年主任の織川先生から、これから始まる学校生活の注意点、また初心を忘れず3年間頑張るようにと挨拶があった。

教務部、生徒指導部、進路指導部から高校生活についての話があり、生徒達は真剣に話を聴いていた。

10日(木)には、新入生と在校生との対面式が体育館で行われ、入学式とはまた違う雰囲気ながらも緊張した様子的一年生に、在校生は暖かい拍手を送った。始めに学校長から「入学おめでとう。これから初々しい気持ちを忘れず、目標を持って頑張りましょう。これから10年後、20年後の自分を見据えましょう。」と激励の挨拶があった。その後、生徒会で作成した学校紹介・生徒会行事紹介があった。

11日(金)体育館で部活動紹介、交通安全教室が行われた。

部活動紹介では、各運

動部、文化部のスピーチやパフォーマンスを交えながら部活動の雰囲気を伝えた。新入生達はどの部活動に入ろうか友人と相談しながら楽しそうに、聞き入っていた。

この後、野辺地警察署交通課の方を講師に招き、「守っていますか？自転車の交通マナー」と題し講演が行われた。

映像を使い、自転車と車の事故、自転車と歩行者の事故をなどスタントマンによる実演の様子が紹介された。身近で便利な乗り物である自転車だが、自動車と同様に命に関わる事故の加害者になる危険性があることを再認識することができ、自分の人生はもちろん、家族の人生まで

も狂わせる交通事故、この講話をきっかけに日常生活を見直す機会となった。

14日(月)、講師に弘前女性クリニック院長の連尾 豊氏をお迎えして、「大事にして欲しい自分の心と体」と題して性教育講話を行い、「望まない妊娠」を避け性行為はしないこと、また「ピル以外の方法では避妊を失敗しやすい。」ことも話されていた。講話を聞き、性に対しての正しい知識や性感染症の恐ろしさなど、高校生として大切なことを学んだ。

新学期早々の目白押しの行事に、生徒たちの眼差しも真剣で、気持ちも新たに高校生活をスタートさせた。



新年度を迎えて

目をキラキラさせ、見るものすべてに興味を持った子どもたちが保護者の皆様と元気に登園し無事に入園式を済ませました。これから幼稚園で多くの経験をしていく子ども達の成長がとても楽しみです。更に、私達の仲間に、新しく3人の新任教員が仲間入りをしました。別れが

あり、出会いがあり人と関わることも子どもたちが成長していく中で大切なことです。年長さんは、小さい子への接し方など、ほんの一ヶ月間で園一番の年長としての自覚が見え始めたことにも驚かされます。

新年度は、環境が変わるだけではなく、

心にも大きな変化が見える子ども達の成長に、保護者の皆様とともに願き、認めながら大切に見守っていきたいと思います。すべての子ども達が、「幼稚園大好き」「幼稚園が楽しい」と、過ごせるように教員一同、気持ちも新たに新年度を迎えスタートしました。

爽やかな新任教員



三浦 雅生 先生

4月の入園式から早くも1ヶ月が経ちました。毎日、毎日異なる姿を見せてくれる子ども達に、私自身、試行錯誤の日々を過ごしています。声掛けひとつのテクニックで、子ども達は笑顔にも、涙にもなるため、子ども達の姿をよく観察していこうと思います。また、私自身まだまだ未熟なため、子ども達と共に日々成長をしていきたいと思っています。子ども達に置いて行かれないよう努力し、様々な経験を通し教師として大きくなっていきたいと思っています。



宮崎 結 先生

3月に八戸学院短期大学を卒業し、附属幼稚園に勤務することになり、そら組（5歳児）の副担任をしております。子ども達と過ごして早くも1ヶ月が経ちました。初めは、緊張して子ども達とうまく関わっていく事が出来るか不安な気持ちもありましたが、子ども達の笑顔と明るさに助けられ、今では子ども達と関わることに楽しさを感じています。まだ、未熟な面がたくさんある私ですが、少しでも早く園生活に慣れ、子ども達と一緒に成長していけるように頑張りたいです。どうぞよろしくお願い致します。



高村 友希 先生

この春、八戸学院短期大学を卒業し新たに附属幼稚園の一員となりました。ドキドキしながら子ども達の前で自己紹介をした入園式から早いもので1ヶ月が経ちました。すみれ組（3歳児）の副担任となった私も、子ども達と同じように少しずつ園での生活に慣れてきました。まだまだ不安なことも多く泣き出してしまう子もありますが、「ゆうき先生 おはよう!」と笑顔で挨拶をしてくれる子も増えてきました。不慣れなことや、まだまだな部分もありますが、子ども達に「先生大好き」と言ってもらえるよう精一杯頑張っていきます。どうぞよろしくお願いします。



えんぶり鑑賞会

今年も、2月17日(日)から、八戸えんぶりが開催されました。豊作を願うお祭りとして、八戸に昔から伝わっているえんぶりを、もっと子ども達の身近なものにしたいと思い、十一日町えんぶり組の皆さんに、幼稚園に来ていただきました。幼稚園のホールで、摺りはじめから、松の舞、そして摺りおさめまでを、演じていただきました。

十一日町えんぶり組には、在園児の

佐々木たいが君（3歳）も参加しており、お友達の前で、松の舞などを見事に披露してくれました。十一日町えんぶり組の中では、最年少ということでしたが、大きなお兄さんやお姉さんに負けな、堂々とした動きに、子ども達からも、「すごいねえ！」という声が聞こえてきていました。

子ども達は、目の前で見るえんぶりの迫力に、はじめのうちは圧倒されていま

したが、演目が一つ終わるごとに、どんどん引き込まれていき、最後には「僕もやってみたい！」という園児もいました。

えんぶりもちろんですが、八戸には、沢山の魅力があります。今後も、地域の皆様と交流しながら、八戸の歴史や伝統を、子ども達に伝えていきたいと思っています。



八戸学院短期大学附属幼稚園第二しののめ

春らんまん 入園式

春らんまんの桜の時を向かえ、平成26年4月9日(木)に八戸学院短期大学附属幼稚園第二しののめ入園式を行いました。

理事長 法官 新一様、常務理事 古川 聡様がご来賓として出席して下さいました。温かいお言葉をいただきまして、職員一同嬉しく思いました。

幼稚園の玄関では、マスコット「ステラ」ちゃんがお迎えして記念撮影。子どもたちもとてもよい思い出ができました。

式では、園児一人ひとりの名前が呼ばれ、かわいらしい元気な声を式場にひびかせてくれました。子どもたちの中には、緊張した様子の子も見られましたが、園長が「さいたさいた」の手遊びをして下さり、和やかな雰囲気の中で無事に終えることができました。

園の花壇には、チューリップが春の光りをいっぱい浴びて元気に咲いています。最近ではチューリップでも、様々な品種があり、赤、白、黄色だけではなく、いろいろな色の花を咲かせます。ど



の花を見てもとてもきれいですね。子どもたちもみんなそれぞれ違うカラーをもって、個性豊かです。一人ひとりが芽吹き、茎が伸び、やがて色鮮やかな花を咲かせるために、幼稚園、そして保護者の皆様と共に力を合わせ大切なお子様の成長を見守り支えてまいりたいと思います。



お別れ会



3月中旬に行った「お別れ会」。大好きなお兄さん・お姉さんへ小学校へ行っ

ても頑張っしてほしいという気持ちを込めて、在園児からはペン立てや時間割り表をプレゼントしました。各クラスからは、歌や劇の発表があり、年長児に楽しんでもらおうと、元気いっぱい披露しました。その他、年長児をリーダーにグループを作り、グループ対抗ビンゴゲームを楽しみました。

ビンゴになったグループは、絵本やお遊戯会で使用した衣装などから、好きな物を選びお土産として、持ち帰りました。その後は、ビンゴゲームのグループで席に座り、自分達の作った料理を美味しく食べながら、年長児との最後の時間を楽しみました。

このような園内行事を通して、感謝の気持ち、相手を思いやる心が育つこと、発表する中で自分らしい表現を楽しむことができるようになって欲しいと願っています。

きりん組さん。たくさんの思い出をありがとうございました。



理事長散策

雪とろけ

平成26年4月25日(金)に高坂登志雄先生の訃報に接した。本学院の評議員をお願いしていました。1ヶ月ほど前に体調不良の手紙を受け取りましたが、訃報の知らせは突然であった。高坂先生は光星学院高等学校の第2回卒業生で、歴代の中村由太郎、キヤ理事長先生に可愛がられた卒業生でした。本学院には仙台育英高校から昭和46年に光星高校に転職し、体育の教員として教壇に立った。柔道は生涯の全てであると公言し、国士舘大学に進んで国士舘柔道の歴史を築いたことは、多くの柔道仲間から伺った。弔問にお伺いしましたら、ご遺体の側に紅白の帯で結ばれた柔道着が添えられてあった。

母校を心から愛し、後輩の面倒もよく見る先生でした。いつも若い職員と酒席を囲み豊富な経験から出る話は飽きることはなかった。後にしのめ幼稚園の園長先生から八戸短期大学の教授となり、退官後も八戸大学の武道(柔道)の授業を担当してもらいました。本学院に40年以上にわたり関わって下さったことに感謝を申し上げますと共に、安らかなご冥福をお祈りいたします。

その高坂先生ご存命中の話ですが、教員が集まった宴席で、ご自身が東京生活の時の話を聞いたことがある。東京で故郷の雪降りが話題になり、「今頃、家では雪とろけで大変だ。」といった。そうしたら仲間は「雪が蕩ける」との解釈。方言を知るものとしては当然雪片付けの



ことと理解できるが、東京人にはそうはいかなかった。説明に談笑したことは、今では懐かしい「雪とろけ」の話であった。

ところがあまり雪が降らない八戸で、今冬は3度も大雪に見舞われた。交通機関もマヒ状態になって「ただの雪とろけ」とはいかなかった。大雪警報が先週に続いて出た。八戸は今度もまともに被害を受けそうだ。雲行きから行くとニュースの通り今夜が一番降りそうだ。夕方になるに従い本格的な降りになってきた。湿っぽい雪で太平洋側に低気圧があることがよく分かる。最近の天気予報はよく中るので、明日の朝までに38~60センチ積もるという予想も中した。朝予想通りの積雪。午後からは晴れの天気になって交通機関も平常に戻りつつ、明

日出校の生徒や学生の対応は大丈夫か? キャンパス整備担当者に電話してみた。すでに学院の除雪隊は動いていた。今日は日曜日、広大な美保野キャンパスの除雪作業は大変な作業だ。さらには湊高台キャンパス、点在する幼稚園の除雪。明日の学校の正常化を思うと、休む暇もない除雪隊にはホントにご苦労様だ。野辺地の斎藤校長先生に電話してみたが、野辺地のキャンパスは平常通りとの答えに安心した。

昼過ぎに、美保野に行ってみた。正門の前にキャンパスを同じくする、ILCの安藤先生がいた。今日の行事の案内役のために正門に立っていたのだ。その先の大学の正面玄関には、自宅から15キロも歩いて出勤した戸崎先生が、雪に埋もれスコップを手に除雪作業をしていた。メインストリートは業務班の東さんと川村さんが操る除雪車がフル活動していた。キャンパスのアスファルトがあっという間に見えるようになっていく。職員駐車場、そして学生駐車場へ。さらに短大から美保野小学校へと進む。薄暗くなってきた頃、八戸学院大学サッカー部の学生を引き連れた三田コーチと出会った。石田教務課長の要請で「雪とろけ」の応援に行くという。この日は湊高台キャンパスも遅くまで業務班の伊藤さんを始め、佐藤、坂本さん達で「雪とろけ」をしてもらった。ご苦労様でした。なお、この日暗くなった頃、美保野の除雪隊は弘前市で行われた看護師国家試験受験からバス2台で帰学した看護学科生達を出迎えてくれた。



歓送迎会



3月も半ば過ぎ、新聞には官公庁関係の異動が発表になる。その日から、街の繁華街の夜は賑やかになる。年度の変わり目を迎えて、教職員の異動。合わせて3月から4月にかけては、どこでも歓送迎会は恒例のこと。街中に花束を持った人たちが目につく季節である。本学院も例外ではなく、いつもと違って今年は花束の多い年であった。

なんとは無しに本部職員を相手に、法人内各施設の歓送迎会に出席してみたいとつぶやいたら、各部署で日程を調整してくれて、4月1日の大学・短大と美保野地区事務職員会合同の歓送迎会を皮切りに、すべての部署の歓送迎会に連日出席することになった。

大所帯もあれば、こぢんまりとした会もある。男性職員が多い部署、女性職員が多い部署、それぞれに醸し出す雰囲気も違う。それぞれに所属する学校や専門の違いがそうさせるのだろうか。

1日は、美保野地区の歓送迎会と言いましたが、新旧の入れ替わりも大学・短

大・事務と多岐にわたり賑わいもそれなりであった。何よりも美保野キャンパスで生活する教職員が、一堂に会することと、職場に対する認識が共有できることが期待できる。

2日は、光星高校の専攻科でした。高校とはキャンパスが異なるのと、美保野地区の会にも属していないのでこぢんまりした会でしたが、膝をつき合わせた会は付き合いの深さも自然に増してくる。3日は、光星高校の歓送迎会。大人数の教職員が集う会であった。甲子園の高校野球が終わった直後で活気溢れる会であった。4日は、野辺地に行ってきました。座敷の会合は久しぶりであったが、みんなで肩を寄せ合って膝をつき合わせたの会は、温かさを感じる宴席であった。

12日は幼稚園始まって以来の初の3園統合の歓送迎会でした。男性数人のほとんど女性の職場でした。挨拶で、私は苦手な女性ばかりの会合に出たことを言いながら、締め時間まで皆さんと楽しく

懇談してきました。17日は学園サービスの社員の会。学院の環境や雑務を良く支えてくれている皆さんには、いつも頭が下がる。

どの歓送迎会でも、感謝の意を十分に伝えることが出来ませんでしたが、長くても短くても本学院に奉職し仕事をしていただいた教職員の皆さんの別れの弁に耳を傾けながら、皆さんがそれぞれに人生の大事な時間を本学院のために費やしていただいたことをじっくりと受け取ることが出来、感謝の念が沸いてくるのでした。そして、今年も新人の教職員の希望に満ちた挨拶も聴くことが出来、頼もしく思いました。併せて、こうした会合の席には、いつも後援会、父母の会、同窓会の外郭団体役員の方々のご出席をいただき、有り難く思います。

26年度は今日から本当に始まる。今年も元気で明るく活力ある職場を作っていきたい。



八戸学院光星高等学校 硬式野球部選抜甲子園で新たな歴史

— 第86回選抜高等学校野球大会 —



2年ぶり7回目の出場になった今大会は、昨年一年間甲子園から遠ざかっていた我々に大きな勇気と財産を残してくれました。昨秋の青森県大会では、青森山田高校に完敗し、どのようにしてチームを立て直し、その後に控えていた東北大会に挑んでいったらよいのかと、迷っていました。大会まで二週間という短い期間しかないなかで、何ができて何をやるべきなのか、考えれば考えるほど迷いが深まっていきました。しかし、今までやってきたことを信じ最後までやりきることになり、もう一度選手達と部長、監督、コーチが心の底から一つになり、チーム一丸で大会に挑みました。東北大会では青森県大会とはまるで別のチームかと思わせるくらいに素晴らしい戦いを演じてくれました。技術のすばらしさ以上に選手達の活き活きとした姿が何よりも相手を圧倒する原動力となり、優勝することになりました。青森県大会を優勝できなかったチームで選抜甲子園大会に出場するのは本校では初めてのことであり、改めて高校生が秘めた可能性の大きさや、我々指導者の指導の在り方などおおいに勉強させられました。

一月の末に正式に選抜の出場が決定してからは、甲子園で勝つための準備を徹底してやるつもりでいましたが、例年以上の豪雪で思うような練習ができませんでした。しかし、それを言い訳にするわけにはいきません。その中で工夫し、時には雪が降り積もる氷点下のグラウンドで、夜の遅くまで練習を頑張りました。そのような過酷な状況で選手達は弱音を吐くことなく練習に励みました。もしかしたら技術的な向上には繋がらないものだったかもしれませんが、技術の向上以上に大切な強い精神力を手に入れることができたと思えば感じています。

大会では、五度の全国制覇を誇る横浜高校との対戦に決まりましたが、厳しい冬を乗り越えた選手達は、また信じられない大きな力を発揮してくれ、東北では初めて横浜高校を破り、八戸学院光星高等学校に新たな歴史を刻んでくれました。二回戦の龍谷大学平安高校には敗れてしまいましたが、堂々と全国に本校の名を知らしめることができたと思っております。そして未だこの東北の地が掴めない深紅、紫紺の優勝旗を本気で目指せる手応えを感じることができました。様々な方に支えられ日々の硬式野球部の活動があるということを忘れず、今後も精進し全国制覇を達成するために頑張っていります。応援ありがとうございました。

監督 仲井 宗基

ご声援ありがとうございました